

令和8年度 第2回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議

【次 第】

日時 令和8年8月26日（水曜日）14：30～16：00

場所 神奈川県庁本庁舎 3階 大会議場

1 開会

- 海老名市教育委員会教育長 伊藤 文康
- 神奈川県教育委員会教育長 花田 忠雄

2 報告

- (1) 令和8年度の主な取組状況について
- (2) 教育支援コーディネーター情報連絡会（第1～4回）実施報告について
- (3) フルインクルーシブ教育推進アドバイザー派遣の実施状況について
- (4) 調査研究部会の進捗について

※書面報告のみ

- ・ 令和8年度海老名市フルインクルーシブ教育シンポジウムについて
- ・ 令和8年度海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について

3 議題

- (1) 居住地交流について
- (2) 海老名市の「学び」について
- (3) 令和8年度有識者等による外部評価について

4 事務連絡

◇学校見学および第3回調査研究部会 10月28日（水曜日）

学校見学 10：30～12：30（場所：海老名市立有馬小学校）

第3回調査研究部会 14：00～16：00（場所：海老名市教育支援センター）

◇第3回推進会議 2月8日（月曜日）10：00～11：30

（場所：えびなこどもセンター 2階 201会議室）

（配付資料一覧は裏面）

【配付資料】

- (資料 1) 令和 8 年度の主な取組状況について
- (資料 2) 教育支援コーディネーター情報連絡会（第 1 ～ 4 回）の実施報告について
- (資料 3) 令和 8 年度「フルインクルーシブ教育推進アドバイザー派遣事業」実施状況について
- (資料 4) 調査研究部会の進捗について
- (資料 5) 令和 8 年度海老名市フルインクルーシブ教育シンポジウムについて
- (資料 5－2) 令和 8 年度海老名市フルインクルーシブ教育シンポジウム一次案内
- (資料 6) 令和 8 年度海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について
- (資料 7) 居住地交流について
- (資料 8) 海老名市の「学び」について
- (資料 9) 令和 8 年度 有識者等による外部評価について

- (参考資料 1) 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 設置要綱

令和8年度 第2回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 名簿

【構成員】

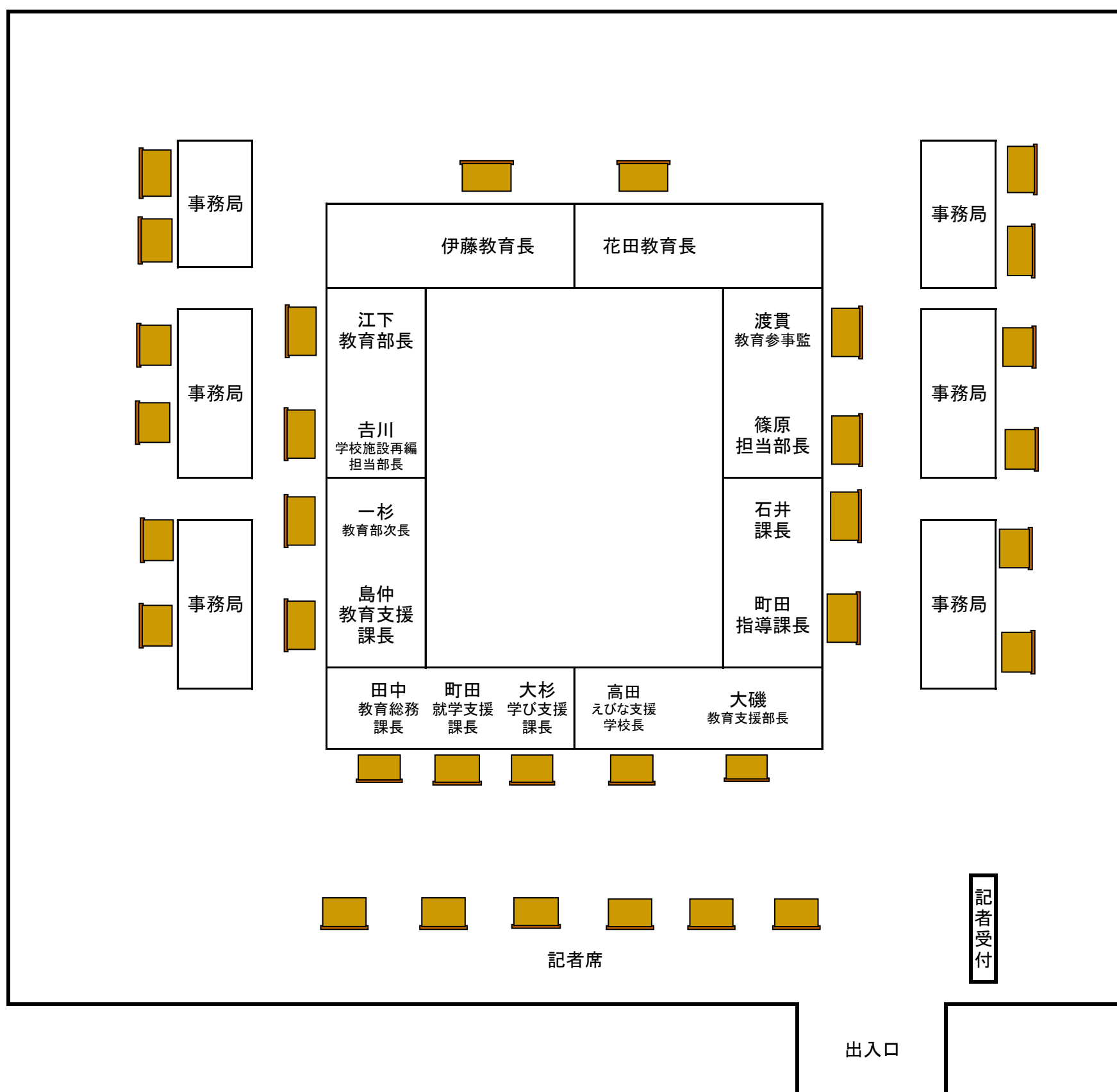
1	海老名市教育委員会	教育長	伊藤 文康
2		教育部長	江下 裕隆
3		教育部学校施設再編担当部長	吉川 浩
4		教育部次長	一杉 幹也
5		教育部専任参事 兼 教育支援課長	島仲 京子
6		教育総務課長	田中 歩
7		就学支援課長	町田 誠祐
8		学び支援課長	大杉 誠
9	神奈川県立総合教育センター	教育支援部長	大磯 美保
10	県央教育事務所	指導課長	町田 一則
11	神奈川県立えびな支援学校	校長	高田 君恵
12	神奈川県教育委員会	教育長	花田 忠雄
13		教育参事監（学校教育担当）	渡貫 由季子
14		インクルーシブ教育推進担当部長	篠原 朋子
15		インクルーシブ教育推進課長	石井 晴絵

【事務局】

16	海老名市教育委員会	教育支援センター所長	小藺 洋
17		教育支援課指導係 指導主事	五十嵐 光
18		教育支援課支援係 指導主事	豊山 花林
19		教育支援課支援係 指導主事	小原 瑠美
20		教育支援課支援係 指導主事	伊藤 紀貴
21	神奈川県立総合教育センター	学校教育支援課 指導主事	池田 知子
22	神奈川県教育委員会 インクルーシブ教育推進課	課長代理 兼 事業調整グループ GL	木下 亜希子
23		事業調整グループ 副主幹	花田 竜也
24		指導グループ GL 兼 指導主事	大原 照恵
25		指導グループ 推進市町村担当班長 兼 指導主事	村井 宏行
26		指導グループ 指導主事	稲富 啓太
27		指導グループ 指導主事	高橋 了士

令和8年度第2回海老名市・県フルインクルーシブ 教育推進会議 席次表

令和8年8月26日(水)14:30～ 神奈川県庁本庁舎 3階 大会議場



令和 8 年度の主な取組状況について

A 「みんなでめざす」

○対話の場の開催

- (1) 各校の学校運営協議会向け
 - ・ 7月開始。中学校区 1 校、小学校 1 校、中学校 1 校実施
- (2) 市民向け
 - ・ 12 月 20 日（日）10:00 より海老名市役所 401 会議室で開催 100 名想定
 - （仮）「みんなでつくる、みんなの学校～対話から見えてくる、地域でできること～」
- (3) 児童生徒向け
 - ・ 教職員との協働により、児童生徒が対話を行っている場面や内容を収集し、「（仮）児童生徒向け対話の場資料集」を作成する。

○教職員研修・市民学習会の開催

- (1) 市主催研修
 - ・ 「フルインクルーシブ教育のさらなる推進に向けて～人権の視点から考えよう～」
 - ・ 「みんなで考えよう！だれもが安心、インクルな学校行事」
 - ・ 「特別支援教育のあり方～こどもの理解と具体的な支援の仕方～」
- (2) 市民学習会
 - ・ 10 月 25 日（日）10:00 海老名市役所 401 会議室 100 名想定
 - ・ こどもの頃から同じ教室で勉強すること、当たり前と一緒にいる環境や体制を整えることの大切さについて、お話しいただく。

○県内シンポジウムの開催

- ・ 令和 8 年 11 月 18 日（水）13：30 より、海老名市立今泉小学校で開催
- ※ 詳細は書面報告（資料 5）参照

B 「みんなで支える」

○教育支援コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実

※詳細は資料 2 参照

○スペシャルサポートルームと心の教室の活用推進

- ・ 誰もが安心して過ごすことができる教室環境を各校で考え、教員と支援員で運営。



裏面あり

○就学相談

- ・開始時期の見直しに伴う関係機関への周知

C 「みんなで見直す」

○学校教育活動での取組

【各校の取組の一例】

- ・ひとりひとりに合った学びを実現するために、「自由進度学習」の研究に取り組んでいる。
- ・全教職員が授業時間以外の1時間を支援学級にかかわる時間とし、すべてのこどもをすべての教職員で見るという意識醸成を図っている。また、支援学級担任が学級で交換授業を行っている。
- ・総合的な学習の時間に、6年生がインクルーシブ教育を探究課題として設定し、学習に取り組んでいる。また、学習の発展として、校内のこどもが誰でも安心して利用できる教室をこどもが発案し、運営している。
- ・支援学級の教材や提示物を職員室内に展示し、教職員全体で支援教育について理解を深める取組を行っている。
- ・学校行事の反省や振り返り時において、「インクルーシブの視点」という項目を設け、全職員の意識醸成を図っている。
- ・各学年の支援学級と学級を同じ階に配置している。
- ・職員室の座席配置において、教職員どうしが、すべてのこどもについて声をかけたり話し合ったりできるように、支援学級担任を学年団の中に配置している。
- ・校内にインクル掲示板を設置し、インクルーシブな考え方を学校や保護者、地域全体で共有している。

D 「みんなで整える」

○校内、教室の環境整備

- ・全小学校13校にインカムを配置し、教育支援コーディネーターや教員、支援員等がリアルタイムに連携し合い、こどもへの支援を行っている。
- ・教室改善モデル校の5年生の教室に台形の机と軽量の椅子を導入。教科の目的やこどもの学習の目標に応じて机の隊形を変えることを通して、こどもどうしのかかわり合いを増やし、作用し合う力を高めている。



教育支援コーディネーター情報連絡会（第1～4回）の実施報告について

1 情報連絡会の目的

すべてのこどもが安心して参加できる学校づくりを進めるために、教育支援コーディネーターどうしが情報交換やケーススタディ、研修等を通して学びを深める。特に「一次的支援（予防的支援）」をどのように学校全体で進めていくかを大きなテーマとして取り組む。

2 各回の主な内容

■ 第1回 教育支援コーディネーターの役割

目的：教育支援コーディネーターの役割を共通理解する。

内容：「教育支援コーディネーターの手引き」をもとに役割を確認

■ 第2回 部会研究・ケーススタディ

（1）部会研究

中学校区ごとにグループを編成し、次の6テーマで研究を開始

- A 担任一人で抱え込まない校内支援体制づくり
- B 不登校・登校しぶりを予防する一次的支援
- C 学級を「ホーム」にする一次的支援
- D 教育支援コーディネーターによる校内巡回のあり方
- E 校内リソースをつなぐ教育支援コーディネーターの役割
- F 保護者とともにつくる支援体制

- 11月シンポジウムで中間報告
- 次年度以降も活用できる実践資料としてまとめる予定

（2）ケーススタディ

- 架空のケースをもとに事例検討を実施
- こどもの背景や見立てについては活発な意見交換ができた。
- 「個別の支援」から「すべてのこどもへの支援（一次的支援）」まで視点を広げることに難しさが見られた。

■ 第3回 えびな支援学校視察

内容：校内見学、学校概要・進路指導についての説明

支援学校教員とのグループディスカッション

- こどもの実態に応じた学びや環境づくりが参考になった。
- 支援学校を初めて見学したコーディネーターも多く、学校づくりを考える貴重な機会となった。

■ 第4回 中村信雄氏講話

テーマ：「一次的支援とは何か」

主な内容

- 教室や学校環境そのものを見直す視点の大切さ
- 一次・二次・三次支援は分離するものではなく、相互に関連しながら学校全体の支援を高めていくことが重要であること

演習

- 第2回で扱ったケースを再検討
- 「学校全体でできる一次的支援」をテーマに協議
- 前回よりも一次的支援のアイデアが多く挙がり、視点の広がりが見られた。

3 第4回までのまとめ

- 教育支援コーディネーターは、今までの教育相談コーディネーターの経験がある教員も多く、こどもの背景や個別の支援を考える力は非常に高い。
- 教育支援コーディネーターだけでなく、有識者、えびな支援学校の教員、県インクルーシブ教育推進課指導主事など、様々な立場の方にも参加いただくことで、多様な視点から協議を深めることができた。
- 「すべてのこどもへの支援」という一次的支援の考え方については、まだ整理が必要である。
- 「一次・二次・三次支援」を切り分けて考えるのではなく、それぞれが関連し合いながら学校全体の支援につながるという視点を、今後さらに深めていきたい。

4 今後に向けて

ケーススタディ等を通して、一次的支援（予防的支援）についての理解を深め、学校全体の支援体制の充実につなげていく。

部会研究では、各校の取組や工夫を共有・蓄積し、今後の教育支援コーディネーターの実践に生かせる成果としてまとめていきたい。

また、第5回以降は、県立総合教育センターの指導主事や市の専門職にも参加いただき、より多様な視点を取り入れながら、学校における支援体制のあり方について、さらに議論を深めていきたい。

令和8年度「フルインクルーシブ教育推進アドバイザー派遣事業」実施状況について

1 趣旨

本事業は、有識者の専門的知見を活用し、学校の実情に応じて、継続的な伴走型支援を行い、校内支援体制の充実とフルインクルーシブ教育の推進を図ることを目的に、令和8年度より実施しているもの。

2 実施状況＜小・中学校 19 校合計＞（令和8年7月末時点）

項 目	状 況
想定派遣回数	76 回（19 校×4 回）
希望状況	50 回
実施数	12 回
今後実施予定	38 回
主な内容※①	授業観察、ケース会議、校内研修、情報連絡会 教育委員会への指導助言

※① 具体的な助言内容等は、（裏面）「【参考】主な実施内容について」も参照

3 学校現場の受け止め（実施後の所感）

- 「困っているこども」ではなく、「困っている状況」を見る視点が得られた。
- 学校全体で支える重要性を再認識した。
- 授業改善につながる具体的助言だった。
- 継続的にお願いしたい。
- 学校の当たり前を見直すきっかけになった。
- 自分事として捉えることができた。

4 今後の対応

- 現時点で、想定派遣回数に余裕があることから、引き続き、各学校の課題の把握に努めるとともに、実施希望を募集する。
- 継続的な伴走型支援という特徴を生かし、学校の主体的な取組につながるよう、1回目の訪問を生かした働きかけを継続する。
- 年度末には、海老名市教育委員会が実施するアンケートも活用しつつ、各学校における事業効果を整理する。

（裏面に続く）

【参考】主な実施内容について

実施校等	実施内容	主な変化や成果
有鹿小学校	児童観察・ケース会議	学習環境改善（個の支援）から学級全体への支援について視点が広がった。
柏ヶ谷中学校	授業観察	授業改善、全ての生徒支援について具体を共有できた。
中新田小学校	教職員研修 （合同実施）	意識改革、一人ひとりの教員の行動促進につながった。
有鹿小学校		
杉本小学校	教職員研修	インクルーシブ教育の理念について共有し、支援体制の整備の重要性を共通理解できた。
大谷小学校	教職員研修	教育支援コーディネーターの位置づけについて校内で確認することができた。
教育支援コーディネーター情報連絡会（市教委）	アドバイザー参加	教育支援コーディネーターの横の連携を強化できた。

調査研究部会の進捗について

○ 設置目的

海老名市のすべてのこどもが小学校・中学校でともに学べる環境の実現に向けて、推進会議で協議された研究、企画、実践内容や、想定される課題について調査研究を行う。

○ 調査研究内容

- A 予防的支援の拡大に向けた教育支援コーディネーターの取組について
- B 就学相談における就学先希望の背景について
- C だれもがともに学べる授業のための指導と評価のあり方について

○ 調査研究方法

- ・現行の法令や通知から、現行制度でできることを明らかにし、課題を整理する。
- ・事例を収集し、研究を行う。
- ・必要に応じて、教職員やこどもへの聞き取りおよびアンケート調査を実施する。

○ スケジュール

【第1回部会】 令和8年6月26日(金)10時00分～12時00分

- ・第1回推進会議での外部評価及び会議の報告
- ・令和8年度海老名市フルインクルーシブ教育の取組について
- ・調査研究内容について確認

【第2回部会】 令和8年7月29日(水)10時00分～12時00分

- ・調査内容報告、共有、課題の整理 ⇒ 必要に応じて追加調査
- ・調査結果に基づく研究

【学校見学】 令和8年10月28日(水)10時00分～12時30分 有馬小学校

【第3回部会】 令和8年10月28日(水)14時00分～16時00分

- ・調査結果に基づく研究、調査結果報告、提言案の作成

【第4回部会】 令和9年1月頃

- ・第3回推進会議に向けて、提言の整理
- ・次年度の取組について検討

○ 調査内容・方法

A 予防的支援の拡大に向けた教育支援コーディネーターの取組について

(内容)

- ・教育支援 Co に後補充を配置したことによる、コーディネート業務の質的变化
- ・校内における予防的支援の効果的な取組や方法、こどもや教職員の変容
- ・教育支援 Co の、担任/担任外、持ちコマ数等と業務内容の相関

(方法)

- ・各校の管理職および教育支援 Co へのアンケートおよび聞き取り調査
- ・教育支援 Co 情報連絡会等で、予防的支援に係る取組状況報告
- ・教育支援 Co の基礎情報(担任/担任外)、持ちコマ数

(進捗)

- ・小中学校各1校の管理職・Co へのアンケートのプレ聞き取りを実施済、第3回の部会までに、全小中学校への聞き取り調査を実施予定
- ・教育支援 Co の基礎情報(担任/担任外)、持ちコマ数について確認済み
- ・情報連絡会では、各校の予防的支援の取組状況を確認

B 就学相談における就学先希望の現状について

(内容)

- ・本人および保護者が就学先希望を決定した要因や時期について
- ・本人および保護者が通常の学級を選択しない・選択できない理由について
- ・本人および保護者が通常の学級を希望するために必要な支援等について

(方法)

- ・就学相談を実施した本人および保護者へのアンケートおよび聞き取り調査
- ・5, 6月の小学校見学に参加した保護者へのアンケート調査
- ・療育、保育園等へのアンケートおよび聞き取り調査

(進捗)

- ・3種類のアンケートについての設計・内容を協議
- ・就学前後のイメージ差や環境面の把握を目的に設問を検討中
- ・調査内容 A や C に関連する設問についても検討中

C だれもがともに学べる授業のための指導と評価のあり方について

(内容)

- ・こどもの主体的な学びを進めるための評価方法の工夫について
- ・ともに学ぶ授業における環境デザインの工夫について
- (・ともに学ぶ授業における指導と評価について、現状の課題の把握)

(方法)

- ・通知表を廃止した自治体への訪問および聞き取り調査
- ・有馬小5年生2クラスの実践への伴走およびこども・教職員の変容把握

(進捗)

- ・通知表を廃止し、新たな評価方法を実施している自治体を全国的に調査
- ・訪問や電話による聞き取りを検討中
- ・幼児教育との接続を意識し1年生からの段階的展開を構想中

令和 8 年度海老名市フルインクルーシブ教育シンポジウムについて

1. 概要

海老名市教育委員会では、令和 8 年 11 月に、海老名市が推進してきたフルインクルーシブ教育について、これまでの成果と課題を共有し、今後の方向性を多様な立場の参加者とともに考えることを目的としたシンポジウムを開催する。本シンポジウムは、学校・家庭・地域が連携して、より学びやすく、誰もが過ごしやすい学校づくりに向けた視点を深める場とするものである。

テーマとしては、「対話を通じて考える海老名市フルインクルーシブ教育シンポジウム～“ともに学ぶ”をあたりまえに～」とし、対話を重ね、学校現場の実践報告や参加者のディスカッションを交えながら、海老名市のさらなるフルインクルーシブ教育の推進をめざす。

2. 目的

- 海老名市および市内の小中学校が取り組んできたフルインクルーシブ教育の現状を共有する。
- 実践の成果と今後の課題を明確にし、関係者全体で認識を深める。
- さらなるフルインクルーシブ教育推進のために、学校・家庭・地域がともに考える視点を明らかにする。
- 対話を通して、学校づくりの改善に向けたヒントを得る。

3. 開催日時

令和 8 年 11 月 18 日（水）

（受付開始・学校見学）12：40～13：30

（シンポジウム）13：30～16：50

4. 会場

海老名市立今泉小学校 体育館（収容人数：約 200 名想定）

5. 対象者・参加者

- 市内小中学校教職員
- 県内教職員・関係者
- 県内市町村教育委員会
- 県立えびな支援学校・海老名市内県立高校教職員
- 地域住民、保護者
- 不登校支援団体、障がい者団体等

6. タイトル

対話を通じて考える海老名市フルインクルーシブ教育シンポジウム
～“ともに学ぶ”をあたりまえに～

7. プログラム

(1) 全体の流れ

- ①受付・学校見学
- ②オープニング・開会
- ③実践発表
- ④対話
- ⑤まとめ
- ⑥閉会

(2) プログラム詳細

12：40～ 受付・学校見学

参加者は開始時間まで自由に校内を見学する。校内マップを配付し、学校の様子や支援体制、環境整備の工夫などを見て回ることができるようにする。

13：30～ オープニングセレモニー

- ・地元アーティスト「ぽっぷこーん☆」による演奏

13：50 開会あいさつ（教育長、学校長）

14：00～ 実践報告（100分）

- ・小学校2校（有馬小学校、今泉小学校）、中学校1校（大谷中学校）、教育委員会から発表

15：40～ 休憩（5分）

15：45～ 対話（50分）

参加者が5人程度のグループに分かれ、その場で円になり、対話を行う。

【テーマ】

- ・フルインクルーシブな学校づくりを進める中で見えてきた課題への対応
- ・さらに推進していくために必要なこと
- ・学校や、自分の立場でできること

16：35～ まとめ（約15分）

16：50～ 閉会挨拶

8. 冊子作成計画

シンポジウムに合わせて冊子を作成し、参加者に配付する。

【内容】

- ・各校ページ
支援体制や取組の様子を掲載
- ・教育支援 Co 部会ページ
各研究グループのテーマごとの研究内容
- ・教育委員会ページ
教育長挨拶、委員会の取組等

一次案内

海老名市フルインクルーシブ教育シンポジウム ～“ともに学ぶ”をあたりまえに～

令和8年
11.18(水)

(受付開始・学校見学 12:40～13:30)

シンポジウム 13:30～16:50

海老名市は、フルインクルーシブ教育の取り組みを通して、すべての子どもがともに学べる学校づくりを進めています。これまでの成果や課題、そして未来への方角性を共有し、多様な立場の方々との対話を通して、フルインクルーシブな学校づくりに向けた視点を深めるシンポジウムを開催いたします。学校・家庭・地域が連携して、誰もが安心して学べる環境づくりを考える場として、ぜひご参加ください。

参加申込



市ホームページよりお申込み下さい。



海老名市教育委員会 主催
神奈川県教育委員会 共催

【詳細プログラム】

12:40～13:30

受付、および校内見学（校内マップ配布）
時間内、自由に校内見学できます

13:30～13:50

オープニングセレモニー
地元アーティスト「ぽっぴこーん☆」
による演奏



13:50～14:00

開会挨拶

14:00～15:40

実践報告
小学校、中学校、海老名市教育委員会による発表
フルインクルーシブ教育の取り組みと課題を共有

15:45～16:35

対話
グループで課題解決や新たな取り組みについて
意見交換

16:35～16:50

まとめ&閉会挨拶
参加者の感想共有



実施日時：令和8年11月18日（水）

13：30～16：50

対 象 ： 県内小中学校教職員、保護者、
地域住民、関係者等

実施場所：海老名市立今泉小学校 体育館
（海老名市上今泉2028）

海老名駅より徒歩15分

※駐車場はないため、公共交通機関をご利用ください



【お申し込み方法】

市ホームページよりお申し込みいただけます。
お電話でも受け付けております。
申込締切：10月16日（金曜日）まで

【お問い合わせ先】

海老名市教育委員会 教育部 教育支援課 支援係
教育支援センター「えびりーぶ」

〒243-0422

海老名市中新田392-1

電話：046-234-8764



【参加申込】



市ホームページよりお申込み下さい。

令和8年度 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について

1 設置目的

フルインクルーシブ教育推進のため、本事業のめざす姿を共有し、課題を整理しながら実現に向けての協議を行う。

2 取組内容

「海老名市のすべてのこどもが、小学校、中学校でともに学べる環境の実現」

- ・フルインクルーシブ教育推進として、教職員、保護者、市民が現状の学校のあり方について協議し、みんながともに学べる学校とはどういうものを協議する。
- ・みんながともに学べる学校づくりへの課題を整理し、解決方法を協議する。
- ・インクルージョンの視点をもち、支援体制や授業づくりに効果的な方法を協議する。
- ・市民会議の令和9年度開始に向けて、具体的な内容について協議する。

3 スケジュール

- ・第1回 令和8年5月28日（木）
- ・第2回 令和8年7月22日（水）
- ・第3回 令和8年11月20日（金）
- ・第4回 令和9年2月24日（水）

4 構成員

1	【有識者】スーパーバイザー
2	小学校保護者1名
3	中学校保護者1名
4	障がい者団体より3名
5	えびな支援学校より1名
6	神奈川県教育委員会 教育局 インクルーシブ教育推進課 指導主事
7	小学校校長1名
8	中学校校長1名
9	小学校教育支援コーディネーター1名
10	中学校教育支援コーディネーター1名
11	海老名市教育委員会 教育長
12	海老名市教育委員会 教育部長
13	海老名市教育委員会 教育部学校施設再編担当部長
14	海老名市教育委員会 教育部次長
15	海老名市教育委員会 教育部専任参事（兼）教育支援課長
16	海老名市教育委員会 教育部参事（兼）就学支援課長

5 開催状況

【第1回】

①【報告】令和8年度の主な取組について

②【グループ協議】これからの学校・学級のあり方について意見聴取

○主な意見

- ・親の世界観が変わってきている。情報の受け取り方も受け止め方も様々。選択することが当たり前になっている。
- ・不登校であったが、少人数でいろいろな子がいる私立に行ったら通えるようになった。
- ・小学校は、いろいろな子が関わり合える良さがあるが、中学校になると、どこまで関わりあえるのか、本人に合わせた支援がどこまであるのか、不安がある。
- ・少ない人数でいろいろなことにチャレンジできる、ひとりひとりに合わせたカリキュラムは、すべての子にとっていいはずだと思う。

【第2回】

①【報告】主な取組の進捗状況について

②【グループ協議】海老名市 フォーカス・シティ市民会議（仮）について意見聴取
「今の海老名市は共生社会になっているのか。」

○主な意見

- ・こども連れの人が過ごしにくいなど、その人がどう安心して過ごせるのかが大切。
- ・ひとりひとりが安心して大切にされることをやっていくとよい。
- ・外国籍、障がいということではなく、その人を見て、認め合えるようにしていくことが大切。
- ・学校から社会に出る時の不安。学校と社会が違ってしまっていては、その差にこどもは苦しむ。学校と社会は別の形にしないほうがよい。
- ・共生社会って難しいなと思っている。みんなが一緒にというのが、相手の思いやりがあって成り立つのではないか。

「学校は何を学ぶことが大切か。」

○主な意見

- ・社会への第一歩として、こどもどうしがいいところも悪いところも認め合うこと。
- ・相手を通して自分を知ること。
- ・地域の人にやっていることを知ってもらうこと。
- ・いろいろな大人と関わっていくこと。
- ・ひとりひとりの足りないところを補うということではなく、良さを活かしていくことが大事。
- ・それぞれの得意なところを繋ぎあわせ、「私はここまでやる」、「ここはお願い」という関係性をつくることができるとよい。
- ・学校ではたくさん失敗して、いろいろな思いを感じる必要がある。そこから学んでいけばよい。
- ・一緒に何かをやる、つくりあげるという経験が大切である。

※2回の会議とも、スーパーバイザーから講義あり

居住地交流について

1. 居住地交流とは

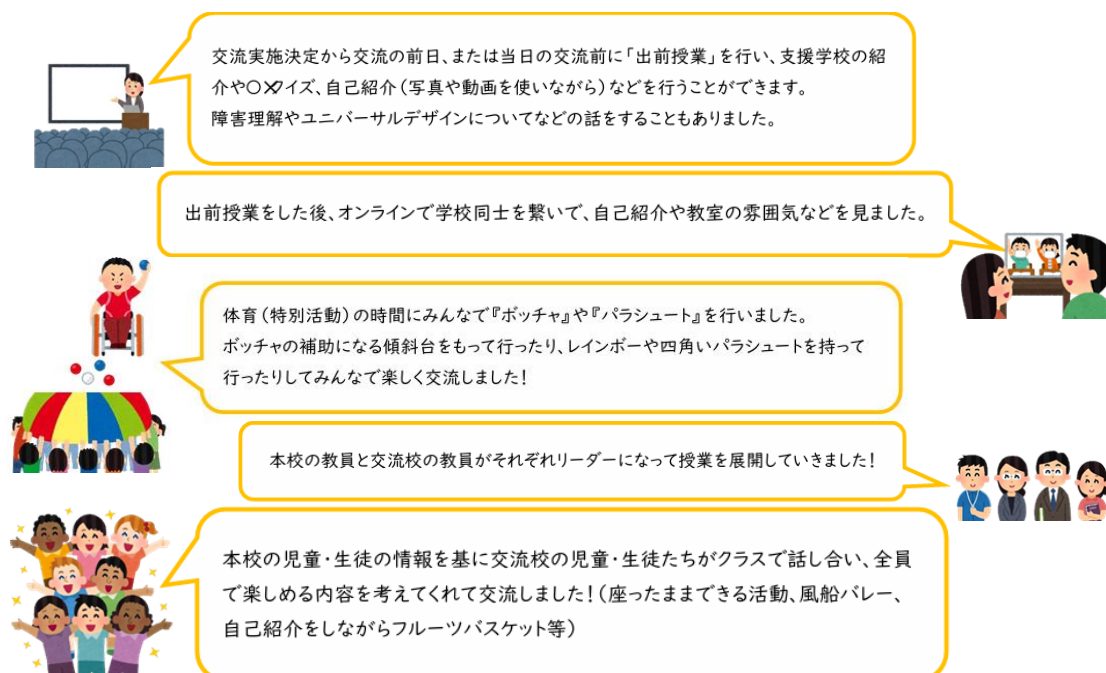
文部科学省の「交流及び共同学習ガイド」では、『幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校(以下「小・中学校等」という。)及び特別支援学校等が行う、障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となるなど、大きな意義を有するものです。(中略)小・中学校等や特別支援学校の学習指導要領等においては、交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすることとされています。(中略)交流及び共同学習は、小・中学校等と特別支援学校が学校間で連携して行うものや、小・中学校等において、当該学校が所在する地域に居住する特別支援学校の児童生徒等を受け入れて行うものなど様々な形態があります』とある。

神奈川県立特別支援学校においても、在籍する児童・生徒が、自分の居住する地域の小・中学生と交流及び共同学習を行う「居住地交流」を実施している。県教育委員会では、以下の留意事項等を示したガイドラインを作成し、共生社会の実現に向けた取組としての重要性から、その取組がより連続性のある継続したものとして実施できるよう、より一層の推進を図っている。

<計画にあたっての留意事項>

- ・居住地交流は、特別支援学校に通学する児童・生徒とその居住する地域の小・中学校の児童・生徒が、同じ社会に生きる人として、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場でもあり、単に場を共にするだけの形式的な交流活動で終わることなく、実質的な交流が図られ、真のふれあいの機会となるように企画し、十分に準備した上で実施する必要がある。
- ・可能な限り、在籍校における教育活動と交流校での教育活動に、連続性を保つことが望ましい。
- ・行事等への招待にとどまることなく、可能な限り発展的な内容を計画することが望ましい。
- ・居住地交流の取組とその評価を次年度に引継ぐことにより、継続した取組が円滑に行われることが望ましい。

2. 県立えびな支援学校の交流例 (えびな支援学校ホームページ「居住地交流について」より交流例を抜粋 ※一部加工)



3. 海老名市としての方向性

<目的>

- ・現状の居住地交流の実施状況を共有し、より充実した居住地交流を実施していく。
- ・より充実した居住地交流を実施していく中で、地域とのつながりをより深めていく。

<より充実した居住地交流にむけて>

- 交流の仕方・内容の検討
- 回数または日数の増加
- 教職員のかかわり方
- 学校間のやりとりの方法
- 保護者の理解・負担軽減

<今後の海老名市の取組予定>

- 市内小中学校への周知・現状の聞き取り
- えびな支援学校の児童生徒の状況把握
- 就学相談の中で、学びの場の見直しとともに、居住地交流についても説明

フルインクルーシブ教育「5年間の取組計画 ⑯授業・学習評価の在り方」について、令和8年度は、フルインクルーシブな視点により授業と学習評価（通知表）の在り方について研究を行っている。

この授業・評価改善については、「第4期えびなっこしあわせプラン」の理念である「包摂性」『誰ひとり取り残さない教育』の実現に向け、「授業改善実践推進委員会」においても「どんな資質・能力を育てるか」という視点で研究を行っている。 ※裏面参照

1 「学びに向かう力・人間性」を育てる授業づくりに向けた研究

＜研究の重点とする資質・能力＞

①学びを主体的に調整する力

こどもの「〇〇したい」を引き出す授業は、どのように実現できるか

②対話的・協働的に学ぶ力

こども同士の関わりから、それぞれが学び取っていく力はどのように高められるか

＜教師の共通理解＞

①具体的にはどのような力が必要なのか、どのような環境、教師の関わりが効果的なのか

※有馬小学校の台形机（こども同士の関わりを重視した環境の例）

②授業改善実践推進委員会の中で協議し、こどもの姿をもとに共通認識をもつ

⇒こどもひとりひとりが主体的に学び、主体的なひとりひとりが互いに関わり影響しあいながら学び、ひとりひとりの主体的で多様な学びを教師が見取ることができれば、意欲と安心感が教室に生まれ、包摂性の高い「誰ひとり取り残さない教育」が実現すると考える。

その子なりの学びを見取って生かすために、
評価を見直す

2 評価の在り方

多様なひとりひとりがその子なりに学びに向かう力を育むことにおいて、一律の評定はなじまない。そこで、評価（こども・保護者へのフィードバック）の在り方を研究する。

①他自治体の先行事例の調査研究を行う。

②市として、こどものどのような姿をどのように見取り記録し、その評価をどう指導に生かすか。そして、どのように保護者に伝えるか。…について、学校長・教職員と協議しながら研究を行う。

R8 授業改善実践推進委員会 研究イメージ

えびなっこしあわせプラン「授業改善の実践」

- 『主体的・対話的で深い学び』を追求します
- 子どもたちが主体的に学習に取り組むために、よりよい学習計画の在り方についての研究に取り組みます
- 「協働的な学び」の実践を重点として、授業改善に取り組むとともに、「個別最適な学び」の実践も積み重ねます
- 教職員が主体的に学ぶ研修の場の充実を図ります

【令和6・7年度の取組】

校内研究を軸に組織的な授業改善に取り組むための研究

「こどもの姿を授業改善に生かす」授業研究

仮想校内研究！
推進委員で1つの授業
研究を実際に行った。

特に「こどもの姿の『みとり』」の視点で研究を進めた。

～小林宏己名誉教授のご助言より～

「観とる」どこから何をみるか 「観とる」丁寧に時間をかけて観る
「診とる」原因から結果までを分析して診る 「看とる」大切に寄り添って看る
参観者の互いの「みとり」を受け止め合って協議会を行う。「この子」の可能性を協議し、評価していく。「この子」の課題・可能性・認知の幅をどのように捉えていくかで授業が変わる。「この授業はこの子」とみていくと「1人ひとりのための授業」につながり、「この先生は自分のことを肯定的にみってくれる」と子どもが感じる。

「この子の姿をもとにした授業研究」が「みんなの授業改善」に

多様な子ども誰ひとり取り残さない授業のために

さらに、子どもたちの「どんな資質・能力を育てるか」という視点で授業改善を考える必要がある。「個別最適な学び」「協働的な学び」は「知識・技能」「思考・判断・表現力」を育てる手段であると同時に、『学びに向かう力・人間性』を育てるための手段である。その目的を意識して研究を行いたい。

そこで、今年度は・・・

【令和8年度の研究】

- ①校内研究を軸に組織的な授業改善に取り組むための研究
- ②「学びに向かう力・人間性」を育てる授業づくりに向けた研究

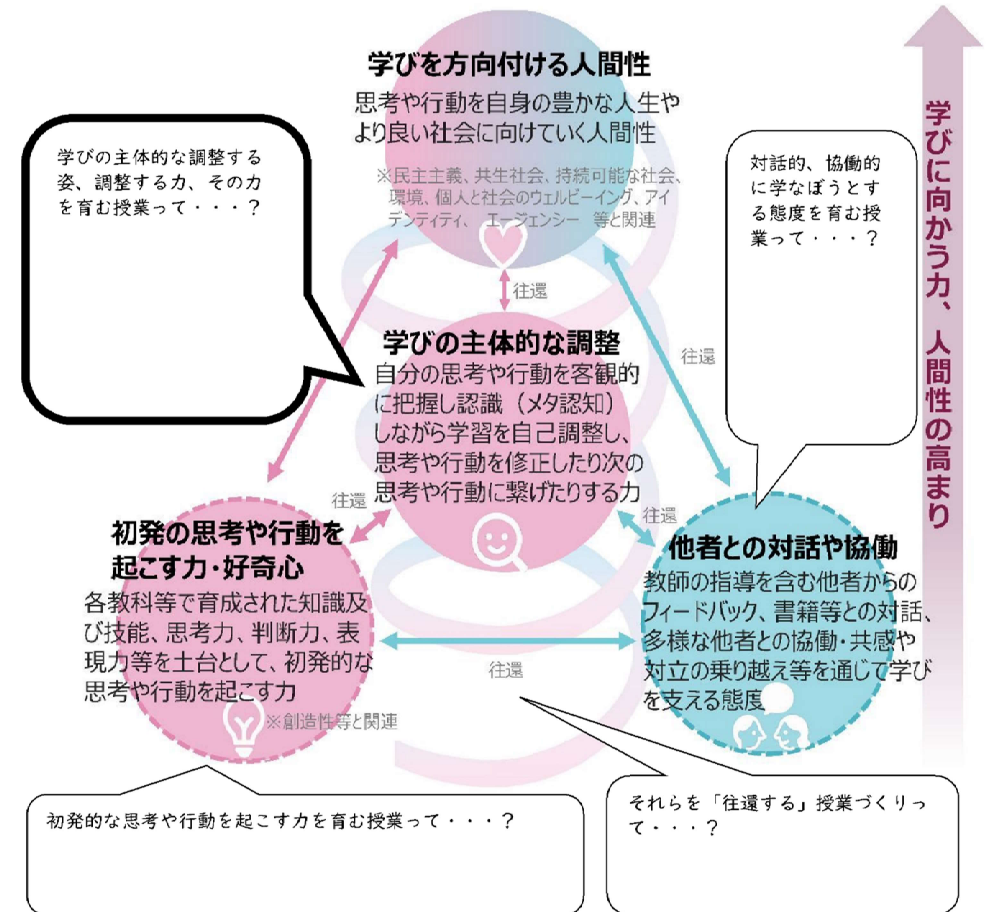
①の研究を進めるための取組・・・

- ・各校の校内研究の取組を共有する。
- ・各校の校内研究の方法を改善できないか話し合う。

令和6・7年度の2年間の研究を生かして、各校でどう授業研究に取り組んでいるか話し合い、これからの自校での授業研究に生かす。

②の研究を進めるための取組・・・

- ・「学びに向かう力（特に主体的に学びを調整する力）を育む授業」のイメージを持ち、そんな授業をつくるために、海老名市が取り組む手だてについて協議する。
- ・自校において、「学びに向かう力（主体的に学びを調整する力）の育成」につながる、工夫ある授業を取材し、推進委員会において共有する。



まずは、推進委員で具体的にイメージする。そして、そのような授業のために市として取り組む手立てを考える。さらに、自校でそんな授業を「探してみる」or「やってみる」。それを委員会で共有する。
教師の「授業づくりの考え方」「こどものみとり」のアップデートのために。
そして、「こどもが主語の授業づくり」「ひとりひとり、その子なりの豊かな学び」のために。

このような研究をととして、多様な1人ひとりがその子なりに学びに向かうとすることにつながっていくのではないかと考える。そして、その1人ひとりの姿を大切に「みとり」、支えることで、すべてのこどもが受け入れられ、あたたかい人間関係の中、誰ひとり取り残されない授業へとつながるのではないかと考える。これが、フルインクルーシブ教育の1つの形だと考える。

令和8年度 有識者等による外部評価について

1. 目的

- 令和8年度のフルインクルーシブ教育推進市町村の取組における課題の明確化
- 次年度以降の取組に向けた助言

2. 評価者

- 有識者 より1名
- 教職員関係者 より1名
- 海老名市内保護者 より1名

3. 評価内容

- 令和8年度の取組における課題および令和9年度以降の取組に向けた助言

4. スケジュール

- 有識者による評価 令和9年2月上旬 ～ 3月中旬
- 評価結果の公表 令和9年5月下旬 ※第1回推進会議で報告後、HPで公表

(参考) 令和7年度

【評価者】

- 泉 真由子 氏 横浜国立大学 理事（副学長）、D&I 教育研究実践センター長
- 島崎 直人 氏 神奈川県教職員組合 執行委員長
- 榎田 成 氏 海老名市 保護者

【評価方法】

- 各評価者を訪問し、評価材料、報告書について事前説明
- 各評価者から書面による報告
 - ・評価項目 ①取組の進捗 ②調査研究 ③機運の醸成 ④総括
 - ・評価内容 令和7年度の取組における課題および令和8年度以降の取組に向けた助言

【評価材料】

以下の資料に基づき、評価を実施

- 協定書 ○推進ビジョンと5年間の取組計画
- 「推進会議」（第1回～第3回）に係る議事概要、配付資料
- 「調査研究部会」（第1回～第4回）に係る協議概要、配付資料
- 「提言 海老名市におけるフルインクルーシブ教育の実現に向けて」
- 情報発信実績（ウェブサイト・リーフレット・イベント等）
- 「対話の場」（6月～1月）に係る実施要項、配付資料、参加者アンケート
 - ① 小・中学校保護者 ②えびな支援学校教職員・保護者
 - ② 県民・市民（オンライン形式・対面形式）
- 海老名市立小・中学校の取組まとめ
- 参考資料
 - ・海老名市教育大綱 ・海老名市立小・中学校の基礎資料
 - ・海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会（第1回～第3回）

海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議（以下「推進会議」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(設置目的)

第2条 全ての子どもたちが地域の小・中学校に通い、同じ場で共に学び共に育つことができる環境の実現を目指し、海老名市・神奈川県の緊密な相互連携と協働による取組の推進を図り、諸課題に係る協議及び取組方針の決定するため、設置する。

(所掌事項)

第3条 推進会議は、次に掲げる事項について協議及び決定を行う。

- (1) フルインクルーシブ教育の実現に向けた研究・企画・実践に関すること
- (2) フルインクルーシブ教育の普及・啓発に関すること
- (3) その他、フルインクルーシブ教育の推進に関すること

(組織)

第4条 推進会議は、別表に掲げる者をもって構成する。

2 議長は、海老名市教育委員会教育長をもって充てる。

3 推進会議は、必要があるときは、専門的事項に関し識見を有する者、関係する県・市職員、その他の者に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(会議の開催)

第5条 推進会議は、議長が必要に応じて開催する。

2 議長は、あらかじめ指定する者に、その職務を代理させることができる。

(部会)

第6条 推進会議は、その所掌事項に係る専門的事項を調査協議させるため、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員は、議長が指名する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する委員のうちから議長が指名する。

4 部会長は、部務を掌理する。

(事務局)

第7条 推進会議の庶務は、海老名市教育委員会教育支援課、神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課及び総合教育センター学校教育支援課が行う。

(補則)

第8条 具体的な実施事項、遵守事項等については、海老名市教育委員会及び神奈川県教育委員会の合意の上、決定する。

(雑則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附則

この要綱は、令和6年5月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和7年5月1日から施行する。

附則

(施行期日)

この要綱は、令和8年5月1日から施行する。

別表（第4条関係）

海老名市教育委員会	教育長
海老名市教育委員会	教育部長
海老名市教育委員会	施設再編担当部長
海老名市教育委員会	教育部次長
海老名市教育委員会	教育総務課長
海老名市教育委員会	就学支援課長
海老名市教育委員会	教育支援課長
海老名市教育委員会	学び支援課長
神奈川県教育委員会	教育長
神奈川県教育委員会	教育局教育参事監（学校教育担当）
神奈川県教育委員会	教育局インクルーシブ教育推進担当部長
神奈川県教育委員会	教育局インクルーシブ教育推進課長
神奈川県教育委員会	県央教育事務所 指導課長
神奈川県教育委員会	総合教育センター 教育支援部長
神奈川県教育委員会	県立えびな支援学校長